



## 総会あいさつ

同窓会長 西田 史朗

若葉のきれいな季節となりました。今年もまた同窓の皆さまと再会できました。大寒の頃、ヤツデとビワが遠慮がちに小さな白い花を咲かせていました。立春にはウメが、つづいてモモがつぼみを膨らませ、そして今年は三月下旬に早めのサクラが満開となり、間なしにツツジとフジが、そして今はクスノキとセンダンの小さな花が、またアジサイが小さなつぼみを膨らませています。今日の会場を華やかにしてくれているバラとシャクヤクは、事務局長の奥様のご丹精の成果で、皆さまへの毎年の贈り物です。

さて教育大学は今年で125周年、わが同窓会は123才を迎えます。1888年奈良県尋常師範学校として発足し、1949年には奈良学芸大学に改組、1966年には奈良教育大学と改称し今日に至っています。起源を1874年明治7年の寧楽書院にさかのぼれば139年目にあたるわけです。そして同窓生も25,000人をこえ住所の分かった会員はおよそその半数に達しています。残りの半数には故人を含むわけで、同窓会員の確認は3分の2程度かと予測しています。今現に地球上で1万数千人の同窓生が活躍していると思うと、誠に心強い思いが致します。

先月二つの同窓会支会に参加させていただきました。大阪市の興東会と天理市支会です。ご存じのように大阪市興東会は、この大学出身で大阪市の教育関係者で作られていますが、新しく採用された者から既に退職された方まで折々に集いを持っておられます。新しい仲間を迎えた歓迎会、中堅教員の研修会などなどよく考えられたプログラムの下で、後輩を引き上げるべく、発奮させるべく、教育に携わるものの資質と技量の向上に努められています。天理市支会では、和気藹々とした雰囲気の中で今回は学寮の思い出が語られました。師範学校時代の全寮制の寮生活、学芸大学時代の桜寮の思い出が、昨日の日のことのように話されました。戦中の先輩の指導下の寮生活、戦後の食料も不足がちな寮生活、新築の桜寮の思い出など懐旧の思いに浸る一時でした。

かつて本学心理学の先生に帰宅の車中、「気」についてお聴きしたことを思い出しています。毎日の生活で大切なのは「元気」です。教育に関わっては「根気」「やる気」あるいは「勇気」。世の中ではアベノミクスが姦しいことですが、「景気」も人々の気持ちのまとまりであり昂揚です。病は気からと申します。同窓の皆さまも気持ちを引き締め、元気にお過ごし下さい。そして母校のために、同窓会のためにご理解とご協力をお願いいたします。今年の総会ではまたまた会則の改正をご論議いただきます。会費納入を一括納入終身制にする提案です。同窓会の安定した継続のための方策の一つと考えました。よろしくご議論下さい。その後ではアトラクションと懇親会が待っています。今日一日を楽しくお過ごし下さい。そして来年もお元気なお姿をお見せ下さい。

追記 今回の会則改正については、予定時間を大幅に超える議論があり、役員会、理事・評議員会での完全一致を見ていない提案であること、当事者である新会員の同意を得ていない提案であることなどが指摘されました。論議の紛糾を勘案して提案者である会長が本案件を取り下げ終結しました。論議の流れから今後終身会費制への移行はほぼ断ち切れものと考えます。